

# 3.21 さようなら原発 全国集会



# 再生可能エネルギーの社会を 実現しよう!

集会の冒頭、呼びかけ人であるルポライターの鎌田慧さんが「原発のない、安心して暮らせる社会にするためにがんばっていきましょう」と挨拶しました。東京電力福島第一原発事故避難者を支援する「避難の協同センター」世話人の熊本美彌子さんは、「避難指示が出ない地域から自主的に避難して、全国の国家公務員宿舎に暮らす人たちがいます。その宿舎からの退去期限が3月末に迫っています。避難生活が原因での経済的困窮や病気が決まっています。居先が決まっています。低所得世帯が対象の家賃補助制度も同時に終了します。『福島に帰れ』と国が自主避難の人たちに言っているように感じます。でも私たちは、福島から避難し続けたいので、高校生平和大使は、「核兵

器廃絶と平和な世界の実現を目標に、活動は全国に広がっています。先日、大好きだった祖母の死を経験したことで、大切な人を失うことになった福島の人たちの心の痛みや苦しみを思いました。輝いていて尊く大切な命を、戦争や原発で失うことがないように、私たちは若者が声をあげていきたいです」と思いを述べました。

最後に、「福島を忘れ去ることは、第二、第三の原発事故を引き起こすことにつながる。脱原発に向けて、議論を開始することが重要な課題だ」という力強い集会アピールが読み上げられ、集まった約1万人が呼応しました。集会後、参加者は思いを一つにし、「フクシマ切り捨てNO!」のポスターを高く掲げ、道行く人々に脱原発を訴えながらデモ行進しました。

最後に、「福島を忘れ去ることは、第二、第三の原発事故を引き起こすことにつながる。脱原発に向けて、議論を開始することが重要な課題だ」という力強い集会アピールが読み上げられ、集まった約1万人が呼応しました。集会後、参加者は思いを一つにし、「フクシマ切り捨てNO!」のポスターを高く掲げ、道行く人々に脱原発を訴えながらデモ行進しました。

グリーンコープは、原発のない社会をめざして運動をすすめています。3月21日、東京の代々木公園で、「さようなら原発」一千万署名市民の会主催の「3.21さようなら原発 全国集会」が開催され、思いを同じくする全国の仲間約1万人が集まりました。グリーンコープからは8人の組合員が参加し、集会後、グリーンコープの旗やメッセージを手にアピールしながら、渋谷駅までデモ行進しました。

集会の様子と、参加した組合員の脱原発の思いを紹介します。



さようなら原発全国集会に参加した組合員

## さようなら原発全国集会とデモ行進に参加した組合員の思い

### 子どもたちの未来のために行動する

組織委員長 佐々木 美由紀さん

この夏やまぐちでは、福島から子どももみまわり大使を受け入れます。その準備として、11月に福島に行きました。自分の目で見て聞くことで、考えさせられることがいろいろありました。子どもたちは未来そのものです。福島の子どもたちを受け入れることで、その未来に関わることができず。楽しみです。

※NPO法人シャロームが主宰。各地で栽培されたひまわりの種を食用油に加工し、製造販売した収益金の一部を使い、福島の子どもたちが放射能の心配のないエリアで保護し、支援者と交流をする取り組み

### 運動の継続が大きな力となる

グリーンコープ生協ひろしま 理事 木上 綾子さん

1月に、チエルノブイリ原発事故で被災し、取材を続けるウクライナのジャーナリストの講演会を開催しました。強制避難させられ、避難先で大変だったことや苦しんだ話を聞いて、福島と同じだと改めて思いました。全国から集まった人たちの脱原発への熱い思いを、ひろしまの組合員にも伝えたいです。運動を続けることが大切だと思いました。

### 若者に届け！脱原発！

グリーンコープがこし生協 理事 武田 典子さん

原発事故は終わっていないと改めて心に刻みました。デモを見た若者の心に、脱原発の思いが響けばと願います。鹿児島では川内原発稼働しており、事故は他人ごとではありません。鹿児島島の強い日差しを利用して発電すれば、原発はいらないと思います。かこしまでは、まず知ってもらうことが大切だと考え、託送料金の学習会を数多く開催しています。

### グリーンコープを越えて脱原発の思いを伝える

グリーンコープ生協おおいと 理事長 宇都宮 陽子さん

大分での脱原発の集会やデモにも参加しているのですが、直接市民に思いを伝えることは大事だと感じています。福島のお母さんたちと話す機会があり、変わらない現状の中で、さらに国が切り捨てようとしていることに、苦しまれている姿を目の当たりにしました。私たちができることを組合員と共に考え、発信していきたいと思えます。

### グリーンコープでんきを もっと広げたい

グリーンコープ生協ふくおか 福岡地域理事長 若松 由香さん

高校生をはじめ若い世代の人たちが壇上で話してくれたことが強く心に残り、嬉しく思いました。昨年ふくおかで実施した脱原発のアンケートは、組合員の半数から回答が返ってきました。たくさんの方の意見や質問への回答を準備しているところです。グリーンコープでんきに参加する人を広げるきっかけにしたいと考えています。



No.130

## 『ストップ 原発再稼働』 「懲りない国 日本」

飯館村は「\*までライフ」をモットーに大量生産、大量消費の生活を見直し、自然と人とのつながりを大切にしたい村づくりをしていました。

しかし、2011年3月に起きた東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故で人々の生活すべてが一変しました。全村避難を余儀なくされ、2017年に避難指示が解除されましたが、放射能の不安が取り払われたわけではありません。事故後、すべての原発がストップしても、電気が足りなくなることはありませんでした。安全を最優先するために、電気の使い方を見直す人も増え、日本でも脱原発に舵を切っていくのだと思えました。

しかし、現在9基の原発が再稼働しています。災害時、予期せぬ事故のリスクや同じ地域に多くの原発が立地する日本では連鎖事故の可能性も高いことから目を背けることはできません。

現在も飯館村は、「までライフ」を大切に未来に向かっていきます。生命や暮らしを大切に思えばこそ、これからは「原発NO」を強く訴えていきましょう。

※福島県北部の方言で、ゆっくり、ていねいに、心を込めて、大切になどの意味。グリーンコープ共同体組織委員会

一般社団法人グリーン・市民電力から

ひろがれ! 私たちの発電所

グリーンコープ・グリーン電力出資金

11,775人 1,114,680,000円 (2019年5月11日現在)

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しよう

2019年3月の売電量		グリーン未来ソーラー売電量	
神在太陽光発電所売電量	111,850kWh 定格出力1,057kW(309世帯相当)	38,619kWh 定格出力376kW(110世帯相当)	
若宮物流センター太陽光発電所売電量	5,015kWh 定格出力47kW(14世帯相当)		
平池水上太陽光発電所売電量	130,742kWh 定格出力1,260kW(368世帯相当)	4,823kWh 定格出力47kW(14世帯相当)	
深年太陽光発電所売電量	161,094kWh 定格出力1,550kW(453世帯相当)	5,157kWh 定格出力54kW(16世帯相当)	